

外語会主催「文化講演会」のお知らせ

講師：野間秀樹氏（前東京外国語大学大学院教授）

演題：ハングルの誕生——〈知〉の革命

日時：3月10日（土）14時～16時

会場：東京外国語大学 本郷サテライト 4階



韓国の国立国語院ニュース・レター
(2011年11月23日)より

講師紹介：野間 秀樹(のま ひでき)前東京外国語大学大学院教授、現国際教養大学客員教授。

1953年生。1987年東京外大朝鮮語学科卒業。1989年同大学院アジア第一言語専攻修士課程修了。専門は朝鮮言語学、日韓対照言語学、韓国語教育。著書に『ハングルの誕生——音(おん)から文字を創る』（平凡社。第22回アジア・太平洋賞大賞受賞、韓国語版はトルベグより刊行）、『韓国語 語彙と文法の相関構造』（ソウル：太学社、大韓民国学術院優秀学術図書）、『新・至福の朝鮮語』（朝日出版社）など、編著書に『韓国語教育論講座 全4巻』（くろしお出版）。2005年大韓民国文化褒章受章。
<http://www.aurora.dti.ne.jp/~noma/>

講演概要：私たちにとって文字が誕生するとはいかなることなのだろうか。15世紀、朝鮮王朝に生まれた文字体系〈訓民正音〉(くんみんせいおん)。その誕生は単なる文字体系の誕生に留まらない。彼の地にあっては、一千年にわたって、およそ〈書かれたことば〉のすべては漢字漢文であった。人々の貴き〈母語〉である朝鮮語はただ話されるものであって、書かれることはなかった。朝鮮王朝第4代の王・世宗(セジョン)は、未だかつて誰も眼にしたことのない朝鮮語の〈書かれたことば〉を創製する。これに驚愕した王朝の知識人たちは、命がけで王を諫めんとする。〈訓民正音〉の創製と成長は、彼の地の〈知〉のありかたを根底から変革することとなった。〈訓民正音〉は後に〈ハングル〉と呼ばれ、しばしば人の生と死にも関わってゆく。我らの時代が共有すべき感動の〈知〉のドラマをここに。

申込み・問合せ先：東京外語会事務局 Tel:03-3815-5877 Fax:03-5842-8377

E-mail: jimukyoku@gaiigokai.or.jp

懇親会：講演の後、講師を囲んでサテライト8Fにてシンプルな懇親会が開かれます。

会費：1000円（会費は講演の聴講費、資料作成費、懇親会費に充当）

サテライト・アクセス：東京メトロ地下鉄「本郷三丁目」から徒歩5分。「沓岐坂上」の角